

平成12年度第1回宇都宮市青少年問題協議会 会議録

平成12年8月9日 午後2時から4時15分

宇都宮市役所14A会議室

(1) 報告事項

- 宇都宮市青少年健全育成計画について
- 少年補導センター街頭補導概要について
- 青少年を取り巻く社会環境実態調査について
- 宇都宮3警察署管内の少年非行について

(2) 協議事項について

「家庭の日」運動推進について

報告事項 について

Q遠藤委員:「仲間づくり推進事業」について。学校教育課・生涯学習課にお伺いしたい。新しい学習指導要領でクラブ活動が廃止の方向にあると聞いている。部活動を

従来どおり実施することはゆとりある学校教育にはならず、学校の空洞化ではないか。学校教育の充実、青少年の健全育成からみると「仲間づくり」は大切で、新しい学習指導要領は施策が不十分ではないか。「仲間づくり」を通して充実していくのか、指導者の組織、子供たちの時間の確保についてお伺いしたい。

A青少年課長:現在4地区で活動している。全国でも類を見ないもので、学校・PTA・育成会との協力を得て活動している。今年度も新たに3地区を支援する予定である。

Q遠藤委員:日常生活の中でアクセスが必要と思われる。地区の「仲間作り」は大変良いもので、ボランティア活動等を主体としているものだが、従来のクラブ活動等ではなく、もっと日常的なものを。場所は学校、指導者の手当等が必要になってくる。チームティーチングは評判がいい。思春期の中で仲間づくりを通して社会性を培っていくのが重要である。

A山市課長:平成14年度から学校のスリム化ということでクラブ活動が廃止の方向にあるので、学校を超えた仲間づくりが必要であり、総合学習の中で実施していきたい。

Q稲村委員:小学校でもクラブ活動の時間が35時間から20時間になる。学校以外の活動として、スポーツ・文化少年団が活躍している。宇宙少年団を結成しようと思っている。ぜひ、この計画の中で支援する事業があれば盛り込んでもらいたい。宇都宮では、こういう活動を保護者がお金を出して連絡を取り合っている。

会長:13から14年度は移行期で今の活動が停滞しては困る。ゼロにするのが良い

等思わない。学校で汗を流す少年がいなくなると困るので、人材バンク・先生・地域が積極的に係わっていききたい。

Q遠藤委員:クラブ活動はなくなるが部活動は存続する。クラブ活動にちょっと食いつく、ちやちな集まりでもいろいろな可能性をみつけられる場合は、子どもの心の健全な発達のためには重要である。思春期の高校生を心配している。

会長：山市課長に確認したい。

A山市課長:週1時間のクラブ活動はなくなるが、部活動の指導は行っている。

Q井口委員:部活動はクラブ活動の代替と考えていると思う。概念規程をきちんと整理して説明して欲しい。昔は必修クラブと言っていた。間違っている人が多い。今後の見通しができない。

会長：クラブ活動と部活動の違いについて。

Q遠藤委員:クラブ活動は必修であるため、部活動と併せている。子どもたちの放課後の適切な指導を！

会長：この件は次回に資料を提出して理解を得たい。

Q菊池委員:環境づくりについての相談関係機関の早期対応について「連携体制作り」「補導体制の充実」は具体的にどんなものか。

A北條課長:教育研究所、少年補導センターに相談所があり、どのような連携をしたら良いのか、あり方を考え、協議の機会を早く持ち、対応のためにシフトして行きたいと考えている。

Q浅川委員:「守り育てる店」はどのようなものを考えているのか。

A北條課長:「青少年を守り育てる店」のシールを全市内の商店に普及したいと思っている。

浅川委員:「愛の一声」はかけづらいが、そのような店に掛けてもらうのか。[子供110番]などにも頼むのか。

A北條課長:一人では掛けづらい。「店」では一遅いから早く帰ろうーなどの声を掛け、-「愛の一声」-も働きかけていきたい。地道な運動が必要。

報告事項2～4について

Q市田委員:ユニオン通り商店街で取り締まり(パトロール)を厳しくした結果(?) 被害もなくなったが、子供たちの姿も見えなくなってしまった。夏休み中に全校生徒登校日がなく、子供たちはどのように過ごしているのか。

A山市課長:子供たちをのびのびと遊ばせるために、全校登校日が無くなったと理解している。外に子供がいないのはテレビゲーム等によるものと思う。今後、教員と子供が1か月間、顔を合わせないのはどうか、触れ合いをもう一考したい。

Q 遠藤委員:以前、ユニオン通りで危なげな少年を見かけた。危なそうな男の子が徘徊している。スケートボードや、パラパラダンスをやっている子供たちは危ない少年が近づくといなくなってしまう。安全にたむろできる、そういう子供と遊びを保護し大人が後押しし、若者の遊びを少し大切にしてあげられる施策があればと思う。

Q 山本委員:社会環境実態調査は、環境点検活動とは別なものか。

A 北條課長:別なもので2年に1度の調査です。

Q 菊池委員:24時間営業のインターネットカフェについて調査していただきたい。また、夏休みの子供たちの過ごし方について見直して欲しい。部活動の子供は毎日学校に行き、地域行事には例えば、お祭には行ってはいけないというのはどうかと思う。また、外泊についても禁止しているようだが、・・・

A 北條課長:インターネットカフェの営業については風俗営業店ではない。陽東地区に7月オープンしているが、現時点では適法であり、補導活動等の巡回をお願いし、「愛の一声」をかけていただきたい。

A 山市課長:部活動については、適正な指導はしており、週一日休みの日を設けている。また、地域行事には参加するよう指導している。外泊については、非行に結びつきやすいため、禁止しているところもあるかもしれない。

協議事項 「家庭の日」推進について

Q 鎌倉委員:市民会議の前身の青少年育成協議会において、20数年前、活動の柱として推進してきたが、定着していない。行政は勿論、民間の団体にも周知徹底してほしい。お題目に終わってしまう。

A 会長:13年度からは公的行事は避けていきたい。

Q 山本委員:「家庭の日」推進ポスターが自治会に1枚きたが、1枚では足りない。行政もやるならば力を入れていただきたい。

A 北條課長:予算的なものも・・・。今後、一層努力していきたい。

その他

大出委員:私立5校の会議で、合同で生徒指導担当が自転車のマナー等について指導にあたった。指導もし易く今後も続けていく予定。作新においては、登校時に40名の教職員が正門に出てあいさつをし、生徒とのコミュニケーションを図っている。半年間実施して子供のほうからあいさつが返ってくるようになった。靴のかかと、服装の乱れも大分見られなくなった。校内は良くなったが、校外においては、まだまだいろいろな行動が目につく。情報の少ないのが学校であり、地域の協力が必要である。何か有ったら学校へ連絡して欲しい。

鈴木委員:地域で犯罪をなくそうという意識で、地域の中に入って犯罪の予防、

学校との連携など地域に保護司を入れて活動して欲しい。保護司にも働きかけ子供の状況を知ってもらいたい。学校との連携を12年度の目標に掲げている。

森山委員：埼玉県で中・高校生200人が「ギャザリング研修(会議に持ち方等)」で集まった際に、いろいろ話を聞いた。補導活動で子供が町にいないと報告があるが、お祭や夜12時頃には出てくると言われた。声の掛け方ひとつで違ってくるので、犯罪を未然に防ぐため、怖がらずに声を掛けていただきたい。

野田委員：いじめが原因の自殺等に対する報道，親への対応，因果関係が分からない。加害者意識の希薄さ，あっても表面的なもの。いじめはやるほうは遊び。厄介な問題が多く，マスコミが引っ掻き回している。昔は加害者は禁欲的だったが，今は違っている。いじめというものの問題性，自殺，親の憤懣，怒りに対し，どうするのか。いじめの共通認識を持つことが必要では。

蓬田委員：失業率もここにきて少し緩和している。有識者の補導も多いようだ。

高松委員：大人を教育しなおす。大人が考え直さないといけないと思う。

瀬尾委員：民生児童委員は幅広く少しずつからんでいる。若松原中学のJRCの先生から独居老人との交流について依頼があり，何回か交流の後消滅した。また，雀宮中では老人との文通をしたい旨の連絡があり，200名の子供が今も続けている。学校と連携をとり，地域でやることもたくさんある。

井口委員：子供の問題は大人の問題である。一つは，真似をして困ることはない。真似をしていいことをする。二つ目は，大人は物分りが良くなりすぎている。メロメロ状態で原理原則をわきまえなければならない。三つ目は，「心の教育」は心ある大人，教員の心ある言動によってのみなされる。

大矢委員：宮まつりが終わって，市内のごみ問題が指摘された。ビールや酒の缶などおとなのごみも多かった。環境道徳を進めていかなければならない。「人材バンク」を整備して，地域の教育を充実させていきたい。委員の皆様の意見をいただき，実効性のあるものにしたい。以上 16：15 終了